



## 第 41 回（2022 年度）日本自然災害学会学術講演会に参加しました（2022/9/18-19）

テーマ：災害科学

場 所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命21（滋賀県草津市）

URL：[https://www.jsnds.org/annual\\_conference/](https://www.jsnds.org/annual_conference/)

9月18日（日）・19日（月・祝）の2日間、日本自然災害学会学術講演会が立命館大学を会場に対面形式（台風14号の影響により19日は急遽オンラインに変更）で開催されました。自然災害学会（昭和56年3月設立）とは、約700名の正会員を擁し、自然災害に関するあらゆるジャンルのテーマを対象とし、自然災害科学の研究の向上と発展につとめ、防災・減災に資することを目的としている学会です。年に1回、学術講演会が行われ、研究発表による情報共有や交流が行われています。

学術講演会には、橋本雅和助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）、佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）、保田真理プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）、齋藤玲助教（認知科学研究分野）が参加し、当研究所の関連として、合計10件（査読付き論文セッション2件、一般セッション8件）の研究発表が行われました。

査読付き論文セッションとは、同学会査読論文誌「自然災害科学」と同様な審査過程を経て受理された論文について発表されるセッションであり、特別号として査読付き論文が発行される対象の発表になります。

齋藤玲助教は、この学術講演会にて「学術発表優秀賞」を受賞しました。

各発表者の講演題目等は、次の通りです。

### 【査読付き論文セッション】

※下線は当研究所構成員

1. 宮嶋愛菜、福島洋、中埜貴元、藤原智：InSARを用いた2011年東北地方太平洋沖地震時における宅地造成地での変動検出とその発生背景の考察
2. 酒井悠里、佐藤健：仙台市のがんばる避難施設に着目したマンション防災力の評価

### 【一般セッション】

1. 信田晃成、門廻充侍、Anawat SUPPASRI、今村文彦：東日本大震災において宮城県内で瓦礫から発見された犠牲者と建物全壊率の関係
2. 齋藤玲、邑本俊亮、小田隆史：教員養成大学における防災教育授業が初年次生の防災教育に対する意識、利他態度、情報処理スタイルに及ぼす効果と個人差（学術発表優秀賞）
3. 市川健、佐藤翔輔、橋本雅和、天谷香織、高村光輝、小野寺洋友、今村文彦：河川技術者が参画する洪水常襲地帯の水防災学習の効果—北上川流域における登米市立津山中学校を対象として—
4. 若木望、佐藤翔輔、渡邊勇、今村文彦：語り部学習におけるオンライン学習形式と対面形式の比較—時短型・災害疑似体験プログラム「ツナミリアル」の事例—
5. 橋本雅和、Mas Erick、江川新一、佐野大輔、越村俊一：浸水想定区域における人流データを用いた立退避難実態調査
6. 渡邊勇、佐藤翔輔、今村文彦：マイ・タイムライン講習会の講習内容と受講者の学習効果・主観的有用性の関係：宮城県大郷町を事例として
7. 保田真理、齋藤玲、邑本俊亮、原田賢治：学校外施設における防災教育による子どもと保護者の防災意識の向上とその持続性に関する検証：静岡県地震防災センターでのワークショップを事例として
8. 佐藤翔輔：吉田川流域の実態にみる「流域治水」概念に対する考察

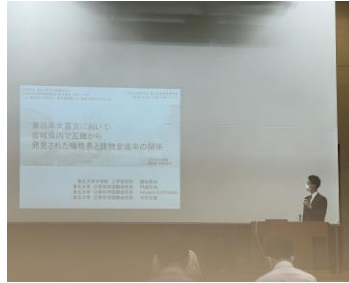
文責：齋藤 玲（認知科学研究分野）  
（次頁へつづく）



学術講演会1日目の発表の様子（9月18日・於 立命館大学）



市川健氏（津波工学  
研究分野）



信田晃成氏（津波工学  
研究分野）

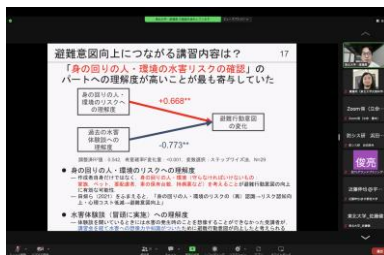


若木望氏（津波工学  
研究分野）

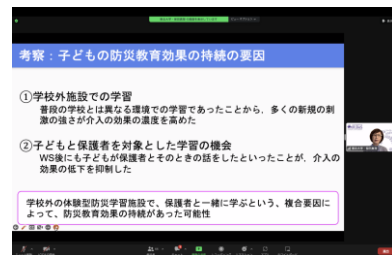
学術講演会2日目の発表の様子（9月19日・於 オンライン）



佐藤翔輔准教授



渡邊勇氏（津波工学  
研究分野）



保田真理プロジェクト講師